令和４年６月１７日
建設建築委員会資料
建築都市局都市再生企画課

「2050 まちづくりビジョン　行動指針」の策定について

令和４年３月に策定した「2050 まちづくりビジョン」の実現に向け、官民が連携して取組む内容と進め方を**「2050 まちづくりビジョン行動指針」**としてとりまとめたことから、報告を行うもの。

１．まちづくりビジョンの概要

（１）目的・役割

市にとって
市が考える将来目指すまちづくりの方向性について、あらかじめ明示する**「メッセージ」**となるもの

民間にとって
まちづくりへ投資を行う際、一つの重要な**「判断材料」**とするもの

市と民間にとって
お互いにベクトルを合わせ、将来に向かって同じ方向へと歩んでいくための**「羅針盤」**となるもの

（２）まちのビジョンとまちづくりの方針

地区名	小倉地区	黒崎地区	東田地区
まちのビジョン	交流を生み、 創造性を高める まちごとワークプレイス	個性輝く、 アクティブタウン	未来スタイルの ショーケース
６つのまちづくりの方針	01. オフィスでも、アウトドアでも、好きな場所、好きな時間に快適に働ける環境 02. くつろげる、リフレッシュできる、リセットできる、自分の時間を過ごせる場 03. 車優先からヒト優先の道路空間へ 04. ウォーカブルな、歩いて楽しいストリート 05. 稼げる、表現できる、交流できるステージ、賑わいと出会いの場 06. シンボリックな空間	01. 医・食・住の機能がコンパクトに集積 02. ゼロカーボン・ローコストな住宅 03. 多世代が交わり支え合う 04. 個性あふれるユニークな店舗 05. シンボリックな、自然と人が集う、賑わいと出会いの場 06. 車優先からヒト優先の道路空間へ	01. 広場･公園を核としたシンボリック空間 02. 「まちごとアート」など、遊び心あふれる場 03. 実証フィールドの提供、実装に向けたサポート等、チャレンジする企業のバックアップ環境 04. 先端技術のショーケース・ラボ 05. 広域から集客し、市内に送り出す集客ポンプ 06. 拠点性の高いステーション

2. 行動指針（小倉地区　抜粋）

２０５０　まちのビジョン
交流を生み、創造性を高める　まちごとワークプレイス
～どこででも、働く、交わる、くつろげる　企業やワーカーから選ばれるまち～

多様な働き方ができる環境づくり

・公園、道路、店舗など、どこでもインターネットに繋ぐことができるインフラを導入するなど、多様化する働き方に対応する環境を創出することで、ギグワーカー(注1)、ノマドワーカー(注2)などの多種多様なワーカーを呼び込みます。

公共的空間で仕事ができる環境（PIXTA）

・気軽に使えるコワーキングスペースなど、働く場を設けることで、多様化する働き方にフレキシブルに対応する環境を創出するとともに、新たなビジネス機会を生み出し、ワーカーを呼び込む好循環につなげます。

公共的空間への通信機器導入　イメージ
（iStock.com/studiostockart）

(注1)インターネットを通じ、単発で仕事を請け負う労働者。
(注2)場所や時間に縛られずに働く労働者。

オフィスビルの供給促進

・耐震性が不十分なオフィスビルの建替えの促進や既存ビルにおける先端デジタル技術の導入など、企業ニーズに対応したスマートビル化を促進します。

・オフィスビルの整備にあたっては、ZEB(注3)をはじめとする省エネルギー化、スマートエネルギーシステムなどの導入や再生可能エネルギーの利用、緑化の促進などによりゼロカーボンシティの実現

オフィスビル　イメージ

・ベンチャー企業や外資系、地元企業など、多様な企業を呼び込むことで、働く場を創出します。

・テレワークなど多様な働き方に対応したマンション等の立地を促進し、職住近接の働きやすい環境を創出します。

(注3)Net Zero Energy Building。断熱性能の向上などによる室内環境の質の維持に加え、再生可能エネルギーを導入することで、年間の一次エネルギー消費量の収支がゼロとすることを目指した建物。

ストリートの魅力向上

・道路では、歩行者が安心して快適に通行、滞在できる空間にするとともに、多様な人の多様な用途、使い方により、賑わいのある空間を創出します。

・アートなどの活用により都市空間の魅力向上、都市イメージの刷新を図ります。

・沿道施設の１階部分と道路を一体的に利用することで、まちに開かれた、くつろぎのある空間を形成し、ストリートの魅力向上を図ります。

歩行者と公共交通のみが通行可能なトランジットモール

パブリックアートによる魅力的なストリート（PIXTA）

歩行者が快適に通行、滞留できる道路空間（iStock.com/VV Shots）

2. 行動指針（黒崎地区　抜粋）

２０５０　まちのビジョン

個性輝く　アクティブタウン

～多様性を認め合い、支え合う　みんなが住みたくなるまち～

駅周辺や商店街に医・食・住の生活利便施設を充実

・医・食・住の生活利便施設の立地誘導により、利便性を向上し、豊かな暮らしを実現する環境を創出します。

・歩いて暮らせる生活環境を整えることで、健康増進を図り、環境負荷を軽減させるなど、ゼロカーボンシティの実現に寄与するとともに、地域で暮らす高齢者などの外出機会を促進させ、人と人との交流機会の増進を図ります。

・住宅にHaaS(注4)などの先端技術の導入により、快適で質が高く、魅力的な住環境を創出します。

(注4)House as a Service。家を様々なサービスの拠点として提供すること。

医・食・住がコンパクトに集積した商店街　イメージ

駅周辺に良好な住環境の整備促進

・交通の利便性が良く、商店街や生活利便施設が立地するなど、生活環境が整った駅周辺において、高品質でローコストな住宅の供給システムを構築することで、住宅の立地促進を図ります。

・住宅の整備にあたっては、ZEH(注5)をはじめとする省エネ住宅の普及、スマートエネルギーシステムなどの導入や再生可能エネルギーの利用、緑化の促進などによりゼロカーボンシティの実現を図ります。

(注5)Net Zero Energy House。断熱性能の向上などによる室内環境の質の維持に加え、再生可能エネルギーを導入することで、年間の一次エネルギー消費量の収支がゼロとすることを目指した住宅。

多世代が集い、学び、地域とつながる場づくり

・地域活動や地域イベントなどを通じて、多世代が共生し、世代間で支え合うなど、持続可能な地域コミュニティの維持、活性化を図ります。

・リカレント教育やリスキリング(注6)等の充実により、若者や高齢者の社会参画を促進します。

(注6)単なる「学び直し（リカレント）」ではなく、新たなあるいは今の職業で必要とされるスキルの大幅な変化に適応するため、必要なスキルを獲得すること。

若者がまちに関わる仕掛け（iStock.com/recep-bg）

世代間交流（iStock.com/kazuma seki）

緑化マンション（iStock.com/MariaMikhaylichenko）

太陽光発電マンション（iStock.com/struvictory）

2. 行動指針（東田地区　抜粋）

２０５０　まちのビジョン
未来スタイルの　ショーケース
～先端技術の未来空間で、見る、感じる、新たな感動体験ができるまち～

居心地がよく、歩きたくなる空間の創出

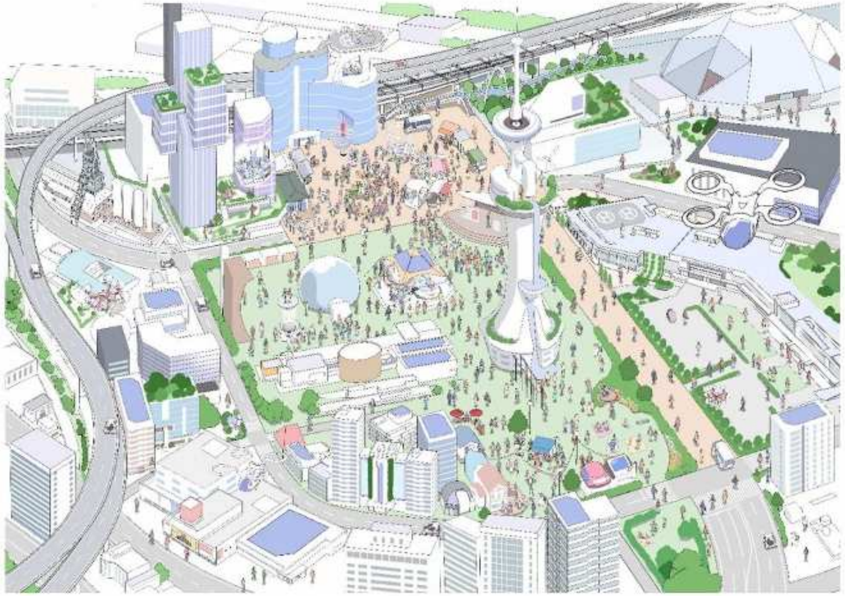
・東田大通り公園では、人を惹きつけるコンテンツを導入することにより、居心地がよく、歩きたくなる、シンボリックな空間を創出します。

回遊バリアを解消した、駅前一帯を包む大広場　イメージ

AR を用いた観光ツール（iStock.com/grinvalds）

地区の魅力を活かした滞在性向上

・産業遺産、博物館群、商業施設との連携強化により、滞在性の向上を図ります。



施設の連携による賑わいの創出　イメージ

チャレンジする企業の支援

・先端技術の実証フィールドの提供やインフラの充実、柔軟な受け入れ体制の構築などにより、先端技術の実証・実装に取り組む企業をバックアップします。

・企業間の情報交換を促進させ、ビジネスマッチングを行い、新たなビジネスに繋げていきます。

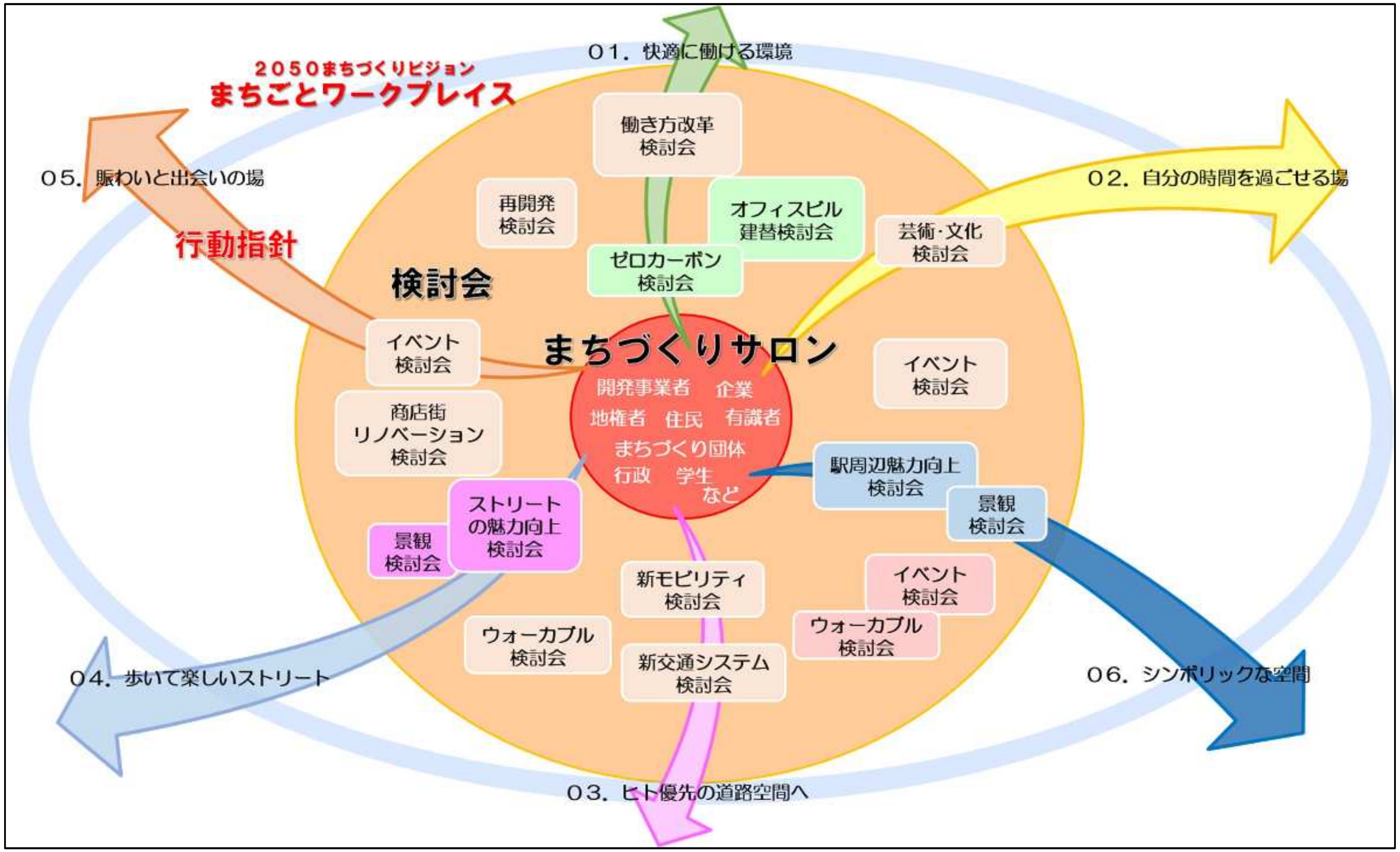
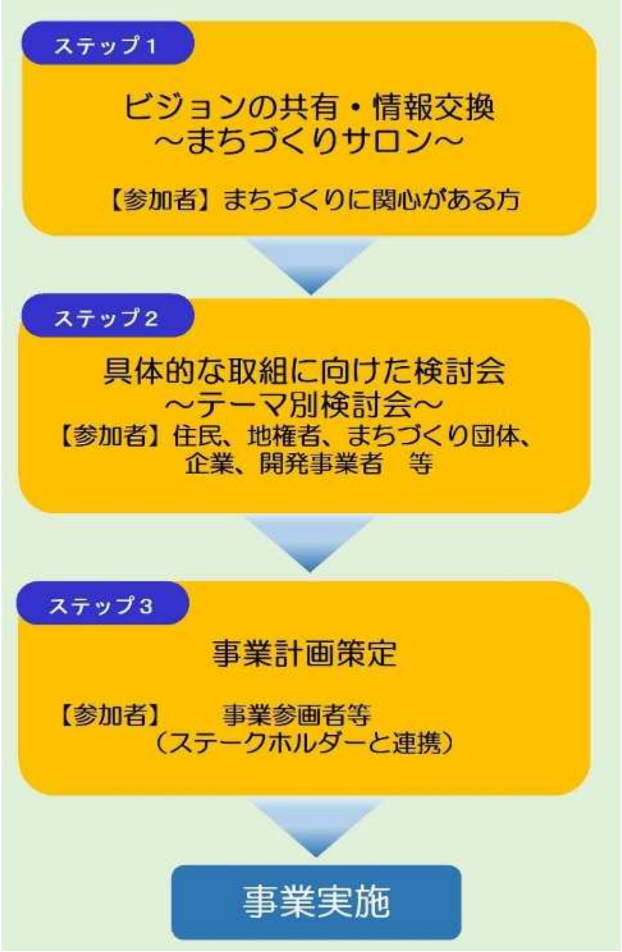
先端技術を実証・実装する企業へのバックアップ　イメージ

自動運転での回遊　イメージ（iStock.com/Scharfsinn86）

３． 官民連携による取組の進め方

・**地域や企業等、まちに関わる様々な方々**とビジョンを基に地域の課題やニーズなどについて意見交換し、**官民で将来のまちの姿を共有（まちづくりサロン）。**
・エリア別、テーマ別に**意欲あるステークホルダーと議論を深め（検討会）**、まちづくりへの意欲を喚起させながら、**できることから柔軟に様々な取組を進める**。

【まちづくりの展開　小倉地区イメージ図】



【まちづくりの進め方　イメージ図】